

「環境保全型」の 自然栽培を学ぶ マレーシアの大学生

桜井

桜井市萱森の「さ・さとやま組合」(松川

一人代表理事)で、マレーシアから来日中のブトラ大学の学生20人

を实地体験を交えて学んだ。

同組合は、「生物多様性」を念頭に置いた環境保全型の自然栽培を推進し、耕作放棄地の解消、里山再生への

取り組みを実践している。

同大の学生は、自然との共存を重視し、環境に負荷をかけない松川代表理事の取り組みについて熱心に聞き入った。また、もみすり、脱穀なども見学した。

ワン・ヌル・ジャズ・ワニさんは「日本は経済が進んでいるので、農業のことはまったく知らなかった。大変勉強になった」と話した。



もみすりを見学するマレーシアの学生「桜井市萱森の「さ・さとやま組合」